

## 編集後記

今年は雪が多かった。ひとたび雪が降ると、雪への備えのない首都圏では電車もバスも実に頼りないものとなる。雪は、大切な用件があるときには厄介なものでしかないが、それでも白い装いをまとった街は美しい。横浜は坂が多く神奈川大学も小高い丘の頂にある。芝生や木々の梢の雪も、キャンパスから見晴らす横浜の町並みも、雪をまとうと全く新しい景色となる。

さて、2007年度、『神奈川大学言語研究』は記念すべき第30号を発行することとなった。2007年11月には国際シンポジウムが開催され、その成果は特別号として公開されることとなった。それに伴う編集担当者増強の一環として、はじめて編集の一員に加えていただくこととなった。

実際のところ、長年編集に力を注がれてこられた大先輩のお力を全面的に仰ぐことになってしまい、反省することしきりである。これからは編集に関する蓄積を少しでも受け継ぐことができるよう努める所存である。第29号より、全論文に英文による要旨と本文と同じ言語によるキーワードが整った。今後も国際水準を満たす紀要であり続けることができるよう、所員一同、向上を目指し続けたい。(R)